

教育保育目標: 『心もからだも健康な子ども』

- 意欲をもって行動する子ども ●豊かな感性をもった子ども ●友達と仲良く遊ぶ子ども ●丈夫で元気な子ども ●気持ちや考えを伝える子ども

園庭をわたる緑の風が、心地良い季節になりました。田んぼで風になびく早苗の姿が、園で活発に遊ぶ子どもと重なります。早苗は水がはられた田んぼの中で一生懸命に根を張り、やがて吹いてくる強い風にも負けないような茎を作ろうとしています。子どもたちもまた幼児園という安全・安心に守られた場所で、これから生きていくために必要なこ

とをたくさん吸収する根っこや、多少のことでは折れない心と体を育てようとしています。初夏の風は生き物の育ちを促し、応援する風です。もうしばらくすると梅雨の季節になります。それまでとことん外遊びを楽しみ、遊びを通して生きる力の基盤をつくって欲しいと思います。竹の友はそれが実現できる幼児教育・保育施設を目指します。

きりん組(年長児)の子どもたちがたけのこ掘りにチャレンジ!!



「たけのこ先生!お願いします!」

「ヨイショ」の声が出ました



自分で掘れた満足感が伝わりますね



町のアじさい塾の皆様から教えてもらいながらたけのこを掘る体験活動は、「竹の友」の伝統行事です。近くに竹林はあるものの実際にたけのこを掘る体験はほとんどが初めて。どうしたら子どもの主体的な活動につながるか保育者も毎年悩むところです。やらされて行う体験活動ではなく、少しでも自分からやってみようという気持ちから主体性の芽が育つからです。たけのこの話や絵本の読み聞かせはもちろん、散歩コースに竹林を入れたり、たけのこ掘りをする地域の人と声を交わしたり、色々と

や竹たけのこに関心が向くようにして当日を迎えました。「道の駅たけのこ」の駅長さんから依頼された「たけのこまつりのテープカット」も、たけのこ掘り体験への意欲を刺激したようです。今年のはたけのこは裏作で数が少ないとか? それでも地主さんが掘らずに残しておいてくださったたけのこを、「たけのこ先生」の力をお借りして掘ることができました。大人の力を借りてはいますが、自分で掘ったという満足感はずっと心に残ることでしょう。

小さな芸術家 こんな「こいのぼり」を作りました



《きりん組のこい》先生が用意したのは布を縫い合わせて作った真っ白なこい。何だか着色するのはもったいない気がしたのですが、子どもたちが油性ペンで絵を描いていました。まるでピカソのような作品です。自由に描けるのは気持ちが伸び伸びしている証ではないでしょうか。



《ぱんだ組のこい》雨に濡れても平気なビニールこい。友達と一緒に吊したこいにジャンプして飛びつく遊びも始めちゃう元気な4歳児です。



《うさぎ組のこい》大きなこいの中に、一人ひとりが作った小さなこいが「入れ子」のように貼り付けられています。チラシ広告を思い思いの形や大きさに切り、それを何枚も重ねていきます。切ったり貼ったりを繰り返して表現活動を楽しみました。



《あひる組のこい》水彩絵の具を手付けて、ペタペタ手形を付けました。好きな色で、どこに付けるか、どの向きで付けるか、子どもが自由にうろこを付けます。絵の具の感触も嫌がらずに表現活動を楽しみました。



の
予定

- 3日(土) 希望保育
- 5日(月) はみがき教室(2~5歳児)
- 6日(火) 中学2年生職場体験
- 8日(木) 避難訓練(ゲリラ豪雨対応)
- 9日(金) えいごであそぼう
- 10日(土) 希望保育
- 16日(金) えいごであそぼう
- 19日(月) 食育の日
- 22日(木) 避難訓練
- 23日(水) 園だより配付
- 24日(土) 希望保育
- 26日(月) 保育実習 (~6/30)
- 30日(金) 各種たより配付
布団・靴持ち帰り
※毎週木曜日にはことばの相談会があります

お知らせ と お願い

【合同参観日のお知らせ】

5月の保育参観にはたくさんの方から新しいクラスでのお子様の様子をご覧いただき、ありがとうございました。7月3日には町の幼児園・小学校・中学校の4園校が同じ日に参観日を開催します。園児の保護者もこの日に小中学校の授業を自由に参観できます。是非ご覧ください。幼稚園: 午前中参観可能 小学校: 5時間目参観可能 中学校: 6時間目参観可能

【コロナ感染症への対応が変わりました】

国のコロナ感染症への対応が見直されました。第9波の流行も危惧されます。先般配付した文書のようにご協力をお願いします。
① お子様の体調をよく観て登園させてください。
② 園への報告をお願いします。

《園で行っている避難訓練》

災害の無い生活を誰も願うところですが、毎年自然災害をはじめ、人為的に起こる災害も少なくありません。自分の身を守る意識をもたせ、適切な対応を取ることができるよう小さなころから身に付けておく必要があります。幼稚園では、毎月避難訓練を行い、いざという時には大切な命を自分で守り、被害を最小限に食い止められるような習慣形成を図っています。

6月は、火災発生時の対応訓練と風水害(土砂崩れ)を想定した避難訓練を行います。まだまだ小さな子どもです。やれることは少ないのですが、避難時には「押さない、走らない、しゃべらない、戻らない」や、大人の指示をしっかり聞き取って避難することなどを中心に、避難訓練をしています。

非常災害時は、スクリーンや電話でお迎えを依頼することもあります。ご協力をお願いします。



ほいくの窓

発達障がいとは?

「発達障がい」と聞くと、みなさんはどんなことを思い浮かべますか? 落ち着きがない、注意力が散漫、感覚が過敏などなど...。言葉は耳にするけど、実はあまりよくわからない、という方も多いのではないのでしょうか。今回は「発達障がい」のごく基本的なことについて、簡単にご紹介します。

*どんな種類があるの?

- ・ADHD(注意欠陥多動性障がい) 多動性、衝動性、不注意などの生活上の困難がある
- ・自閉症スペクトラム(自閉症、アスペルガー症候群など) 対人関係の難しさやこだわりの強さなどの生活上の困難がある
- ・学習障がい(LD) 読む、書く、計算するなどの学習上の困難がある

*原因は? 生まれつき脳機能の一部が通常とは異なる働き方をしてしまうようになることで引き起こされると考えられています。「生まれつきの障がい」であり、親の育て方や生育環境が原因で発症するものではありません。
*治るの? 原因となっている脳機能の障害そのものを治すことはできません。しかし、適切な行動をとる方法を覚え、日常生活に必要なことや、人と円滑にコミュニケーションをとるための手段などを学び、身につけていくことで、つまづきを解消していくことができます。
*いつわかるの? 行動特性が現れるのは乳幼児期で、親や周囲が気づくようになるのは、おおむね3歳前後です。親と目を合わさない、発語が遅い、といった「自閉症」がもっとも早く気づかれます。その他の発達障がいは、幼稚園などの集団生活が始まり、他児と比較することでも気づかれやすくなります。

発達障がいは、できるだけ早く気づいてあげることが重要です。早期に発見して支援につなげることができれば、生活や学習上のストレスを減らすことができます。親や保育者が「困った」と感じるのが、気づきのヒントになります。大人が「困った」と感じることは、たいてい子ども自身の困り感にもなっています。子どもの立場になって、その困り感を理解し、解消する方法を見つけてあげることが大切です。

※参考文献: 発達障害のこどもたちをサポートする本